

自然



暑寒別岳と固有種のマシケゲンゲ（増毛町）



増毛山道（増毛町）



ウミガラス（羽幌町・天売島）
（写真提供：北海道海鳥センター）

暑寒別天売焼尻国定公園

留萌管内では、増毛町の雄冬海岸と増毛山地、羽幌町の天売島と焼尻島が暑寒別天売焼尻国定公園に指定されており、美しい自然景観を楽しんだり、高山植物や海鳥等の貴重な動物を観察することができます。

留萌振興局では、国定公園内の自然環境の保全に務めると共に、利用の促進を図るため、遊歩道や野営場、園地、公衆トイレ等の利用施設を整備しています。

増毛山地は、暑寒別岳(1,492m)を主峰とする火山群で、標高1,000m級の山々が連なり優れた山岳景観を形成するとともに、その西端は海蝕崖となって日本海に落ち込み、奇岩が連続する雄冬海岸を構成しています。

また、暑寒別岳などの山頂付近には、高山植物のお花畑が広がり、固有種のマシケゲンゲやマシケオトギリなどを観することができます。

焼尻島のオンコ林は、イチイ（オンコ）を主体にミズナラやイタヤカエデなど約50種・15万本の樹木が生育し、国の天然記念物の指定も受けており、遊歩道が整備され林内を散策することができます。また、島の中央部には、町営のサフォーク綿羊牧場が広がり、大草原と羊の牧歌的な風景を楽しむこともできます。

天売島の西海岸は、種の保存法の国内希少野生動物植物種に指定されているウミガラス（オロロン鳥）をはじめ、80万羽ともいわれるウトウやケイマフリ、ヒメウ、ウミネコなど8種類の海鳥の繁殖地として、国の天然記念物や鳥獣保護区特別保護地区にも指定されています。

これらの海鳥は、生息環境の悪化等により減少傾向にありましたが、このうちウミガラスの飛来数については、令和4（2022）年に104羽となり、環境省が保護増殖事業を始めた平成13（2001）年以来初めて100羽を超えました。

自然公園の指定状況 R4(2022).4.1現在

公園名	指定年月日	面積(ha)		主なみどころ
		全体	うち管内	
暑寒別天売焼尻国定公園	H2(1990)年8月1日	43,559	増毛町	暑寒別岳
			羽幌町	雄冬海岸 海鳥繁殖地 オンコ林

（国定公園指定書及び公園計画書による）

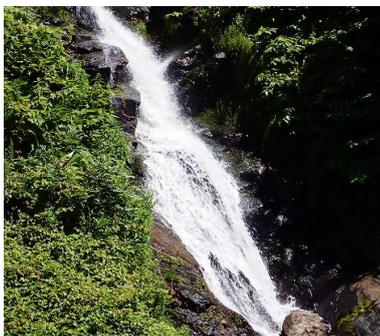
ウミガラス生息数の推移(羽)



天売島の主な海鳥生息数(環境省調)

種別	令和4(2022)年	最大確認数
ウミガラス	104羽	最大確認数
ケイマフリ	891羽	最大確認数
ウミスズメ	278羽	最大確認数
ウトウ※	379,195巣	推定営巣数

※2016年の調査データ。“巣”は営巣数(=つがい数)で、1巣当たりの個体数は2羽となる。



銀鱗の滝（増毛町）



オンコの荘(羽幌町・焼尻島)



赤岩(羽幌町・天売島)

増毛山道

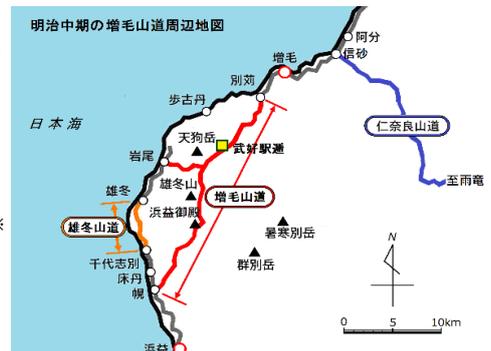
増毛山道は、断崖絶壁が連続し交通の難所とされていた増毛～浜益間の海岸線を迂回するため、江戸末期の1857年（安政4年）、幕府の命を受けたマシケ場所請負人の伊達林右衛門が開削した山道でした。

その後、交通網の発達等により戦後は通行する人もなく、山中で笹藪に埋もれていましたが、NPO法人増毛山道の会と留萌振興局が連携し、平成21（2009）年度から山道の再生事業に着手、地元自治体等の協力を得て、平成28（2016）年10月浜益～増毛間27km(岩尾支線を含むと32km)全線の復元が完了しました。

この山道は、大部分が暑寒別天売焼尻国定公園を通過し、沿線の豊かな自然や壮大な景観はもとより、明治時代の電信柱や電線、碑子、武好(ブヨシ)駅通跡、橋の石積みなど、北海道開拓期の貴重な歴史遺産であることから、平成30（2018）年11月、隣接する濃屋山道とともに「北海道遺産」に選定されています。

留萌振興局では、増毛山道の会等の関係機関と協働しながら、山道の利活用の推進や維持保全に努めています。

※駅通とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を行う施設。



明治中期の山道周辺地図